

審査結果報告書

2023年1月26日

主査 氏名

松永 篤彦



副査 氏名

内山 勝文



副査 氏名

神谷 健太郎



副査 氏名

上出 通人



1. 申請者氏名 : DM17017 関田 惇也

2. 論文テーマ :

人工股関節全置換術後 12 ヶ月時の股関節外転筋力と膝関節伸展筋力を規定する因子

3. 論文審査結果 :

人工股関節全置換術 (THA) は疼痛の軽減もしくは除去、さらに術部股関節の可動域を改善するうえで極めて有効な治療手段であることが知られています。一方で、リハビリテーションの視点から見ると除痛や関節可動域の改善に伴う日常生活活動や移動能力の改善は術後早期に認められるものの、股関節周囲筋や膝伸展筋力の改善は大きく遅延することが指摘されており、その原因探索やリハビリテーション治療内容の検討が大きな課題となっています。関田惇也氏の研究論文は上記の背景のもと、THA 後の筋力の回復に注目し、82 例 (連続症例、平均年齢 63 歳) を対象に 12 ヶ月後の股関節外転筋ならびに膝伸展筋力を規定する因子について臨床データをもとに検討した貴重な報告と言えます。

結果として、年齢、体重、罹患期間および術後の身体活動量が TKA 後 12 ヶ月の股関節外転筋ならびに膝伸展筋力を規定する因子であることが示されました。また、膝伸展筋力については、術前の筋力と年齢の掛け合わせである交互作用項の影響を捉え、特に高齢者が術前の筋力の影響を受けやすいことを明らかにしています。特記すべきは、術後の身体活動量を客観的 (定量的) に評価し、術後の筋力回復との関連を明らかにした点は、THA 後のリハビリテーション (運動療法) を効果的に組み立てるうえで有用な情報となり得ると思われれます。また、関田氏の研究は、実際の臨床業務に関わる中で見出された課題を的確な研究デザインに基づいて検証したものであり、今後も、医学博士号にふさわしい学術活動を永続することが期待できると思われれます。

以上のことから、本研究論文は、博士号の学位に値すると判断いたしました。